

目のチェックポイント

あなたのワンちゃん、ネコちゃんの目は大丈夫?
日頃よりワンちゃん、ネコちゃんの目のチェックを!

左右の目の大きさに違いはありませんか?

物にぶつかったり階段を踏み外すことはありませんか?

目を細くしてまぶしそうにしていませんか?

まぶたがかすかに震えていませんか?

まぶたが腫れていませんか?

まつげに異常はありませんか?

目の周りの毛がぬれていませんか?

目が乾いていませんか?

目やにが多くありませんか?

白目が赤くなっていますか?

黒目が白く濁っていませんか?

目の中の色(虹彩、水晶体など)に
変化はありませんか?

(一つでも心当りがあれば当院にご相談ください。)

動物病院名

病気

こ!

神経

友製薬株式会社
医眼科協議会監修

目薬のさし方

目薬をさす時の注意

1. 指示された使用方法(用法・用量等)を正確に守って、
使用してください。
2. 目薬の容器の先が目に触れないようにしてください。
3. 数種類の目薬を使う場合は、間隔を5~10分あけてくだ
さい。

◎動物をフロアーにおいてそのまま目薬をさすのは困難です。
抱きかかえるか、あるいは食卓などの台に乗せて動かないように保てます。

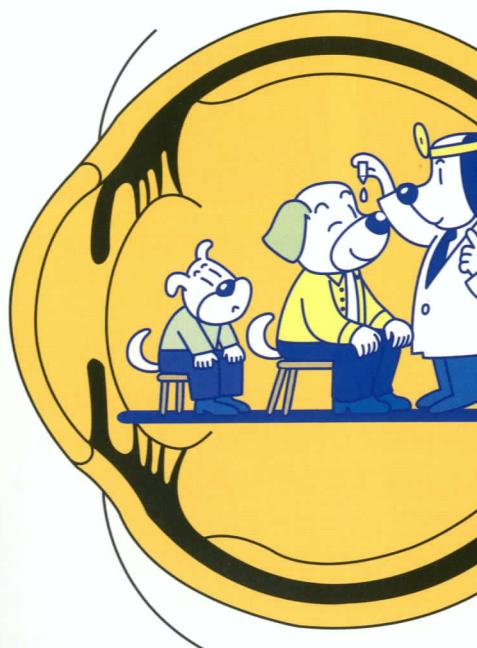
- ①あごの下に片方の手を添えて、顔を上に向け、親指と人さし指で目薬を持ち、残りの指で上まぶたを開きます。



- ②目薬の容器が犬の視界に入らないように後ろから1~2滴します。



犬猫の目の



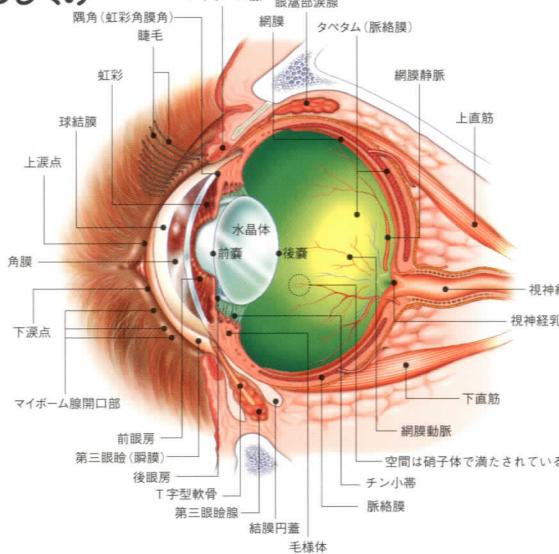
輝く瞳のために

網膜・視神

千寿製薬株式会社 大日本住友
日本獣

犬・猫の目が健康であるために

目のしくみ



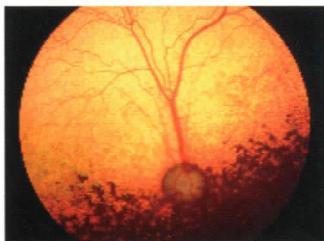
目の構造はカメラに例えられます。

目の組織一つ一つが物を見るのに重要な役割を果たしています。

網膜・視神経の疾患

眼をカメラに例えると、網膜はフィルムに相当し、視神経は網膜に投影された画像を脳に伝えるコードの役割をしています。そのため、網膜や視神経に病気を生じると視覚が障害(失明)されます。

[正常な網膜と視神経乳頭]

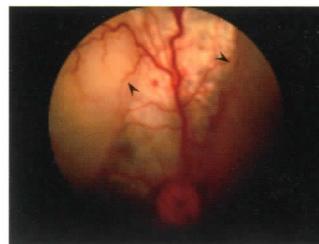


トイ・プードル、♀、1歳3ヵ月

太い血管が静脈、細いのが動脈です。中央下に白色で丸い視神経があります。視神経の上方がオレンジ色に輝いているのは、網膜の裏側に輝板があるため、これは夜行性動物が暗闇で物を見る特殊装置です。

供給が絶たれるために視細胞が障害を受け視覚が失われます。炎症による滲出液の蓄積、外傷、硝子体融解、裂孔(裂け目)など原因は様々です。部分的に剥離した網膜は治療可能ですが、全部が剥がれてしまうと治療不能となります。

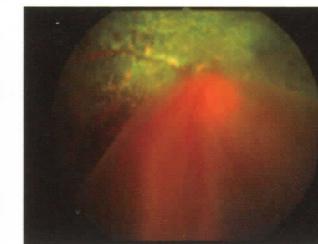
[部分的網膜剥離]



コーギー、♂、4歳

網膜の裏側にある脈絡膜の炎症が網膜に波及して部分的な網膜剥離(矢印)が起こっています。

[網膜全剥離]



シーザー、♀、5歳

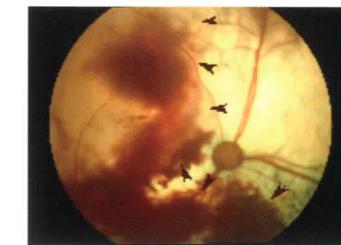
網膜剥離が原因で網膜が全部剥がれた例です。

が持たれています。

●高血圧性網膜症(猫)

高齢猫(平均的な発症年齢は14~15歳)に多く見られる疾患で、網膜剥離や網膜出血により視覚が失われます。高血圧症はありふれた疾患ですが、腎疾患、甲状腺疾患、慢性貧血、糖尿病に続発して発症することもあるので、10歳を過ぎたら定期的な健康診断を行い、早期発見されれば視覚を維持あるいは回復させることができます。

[高血圧性網膜症]



網膜出血と部分的網膜剥離が起こっています。

●網膜変性症

網膜血管が萎縮していくために網膜は栄養供給を受けられなくなり、視細胞が死滅して視覚が失われる遺伝性疾病です。愛犬家がよく耳にする進行性網膜萎縮(PRA)はこのカテゴリーの疾患です。セッター、コリー、ダックスフンド、プードル、アメリカンコッカースパニエル、ミニチュア・シナウザー、ラブラドールレトリバーなど多くの犬種にその発症が確認されています。治療法はありません。遺伝素因を持つ犬の交配を避けることが大切です。

[網膜変性症]



ミニチュア・ダックス、♂、4歳

血管がほとんどなくなり、視神経乳頭は萎縮しています。この犬は視覚が失われています。

[視神経炎]



パピヨン、♀、1歳9ヵ月 (治療前)

視神経乳頭が腫れ、輪郭が不明瞭となっています。この眼は失明していました。



(治療後)

治療後1週間目の所見です。視神経乳頭の腫れがひき、輪郭も明瞭となり、視覚回復しました。

網膜疾患

●網膜剥離

網膜が定位置から分離した状態を網膜剥離といい、栄養

●突発性後天性網膜変性症

ある日突然眼が見えなくなる病気で、病初は網膜に肉眼的变化はなく、視細胞だけが障害を受けて視覚を失います。中年以上で肥満の犬に発症することが多く、原因は不明ですが、症状の現れない肝疾患や副腎の異常が関与する疑い

網膜・視神経の疾患は先天的あるいは遺伝的素因を原因として発症するものが多く治療法もないため、視覚を失うものがほとんどです。疾患が認められた動物の交配を避け、不幸な動物を生み出さないことが大切です。